
僕と君の話

葉崎あすか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕と君の話

【コード】

N5037N

【作者名】

葉崎あすか

【あらすじ】

僕と君だけの話。ちょっとだけ教えてあげるよ。

(前書き)

この詩は作者の勝手な都合により、「詩」の次に「題名」を記す形を取っておりますので、気を付けて読んで下さい。

寒いな
と

僕が言うつと

君が暖めてくれる

それがとても嬉しくて

少しわがままも言ってみたくなる

やっぱりちょっと寒いよ

すると君は少し微笑んで

僕を涼しくしてくれる

君がいるだけで

こんなにも快適に過ごせるなんて

思いもしなかったよ

最初は嬉しかった

こんな君の姿も

もう見飽きてしまったよ

ごめんね

さようなら

そして

こんにちは

新しい君

「カーテン」

ただ立つことしか出来ない君に
僕は何もしてやれない

君は首を少し傾げて
ただただ光の涙を流す

僕がやめると言うまで
ただただ光の涙を流す

僕はそれを利用しようとするなんて
最低な奴だと思っかい？

そうだろうね
でも君は僕を許してくれる

光の涙が途絶えたときに
僕は

君の新しい心を
涙で枯れてしまった心と
交換してあげるから

どうかそれで許しておくね

「卓上ライト」

森の奥に隠れ住む

僕は君を見つけ出した

蝉が少しうるさい午後

少しかがんだ君の姿は

僕にはとても大きく見えた

そっと見つからないように近づくには

とても苦勞したよ

空を突然見上げた君は

僕を見つけて微笑んだ

そして走り出してしまったね

僕は追いかけることも出来ずに

ただ立ち尽くすだけだった

少し悔しいけれど

君を一目見られただけで
今日一日が
いい感じに進みそうだよ

「カブトムシ」

君を見たとき
僕は叫んでしまったよ

そして
君を叩いてしまった

ごめんね
君は何も悪くないはずなのに

でも
どうしても無理なんだ
君を見てしまったら
僕は君を叩いてしまう

ねえ

相談なんだけど

叩かれたくなかったら
僕の前に現れないでくれる？

「虫全般」

君のせいで

僕は涙が止まらないよ
何とかならないのかな

ああ

無理だね

きつと君はこれからも
僕を泣かせるんだね

でも僕は

君に泣かされたことを
ちよっと嬉しいって思っている

おかしいね

ねえ

今日もちよっとだけでいいから
僕を泣かせてくれる？

「目薬」

(後書き)

お久しぶりです。葉崎です。

今回は始めて詩を書いて見ました。
いかがでしたでしょうか？

詩をあまり読んだことがないので適当に書いてみたのですが。

感想などあれば、よろしくお願いいたします。

それでは。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5037n/>

僕と君の話

2010年10月8日23時19分発行